23 ベトナムにおける近年の俳句研究の動向

グエン・ヴー・クイン・ニュー

はじめに

日越両国は最近、要人の相互訪問、経済協力、文化交流において順調に発展して、アジアで最も安定した友好関係にある。また日越関係は、官民レベルでますます緊密になってきている。2013年は、日越外交関係樹立40周年を記念して、「日越友好年」と定められた。2014年、日越関係は「アジアにおける平和と繁栄のための広範な戦略的パートナーシップ」というレベルに上がった。それを反映するように、両国では開催された多様な文化行事が成功裏に終わり、民間レベルの交流が大変活発に行われている。また、両国の政治・経済・文化・教育など様々な分野で緊密な関係が築かれてきている。友好の絆はますます緊密になり、文化交流を通して日本への理解が深まっている。豊かな歴史と伝統文化を持つ日本に対する研究が盛んになり、日本の言語文化と文学への関心が高まっている。

1. ベトナムにおける俳句研究の姿勢

1945年から1970年まで、ベトナムの詩人の何人かが、3行詩の短詩として初めて「俳句らしい」ものを作ったようだ。1971年初め、グエン・トゥオン・ミン氏が初めて日本の俳句をベトナム語で「和歌集」(1971)と「連歌集」(1972)に翻訳した。しかし、当時のベトナム人はこの新しい短詩にあまり魅力を感じなかった。

1980年ごろ、ドイモイ(革新)政策実施後、2000年に俳句が高校教科書に導入され、芭蕉の俳句を通して季語の特徴及び俳句の美意識が紹介された。

閑かさや岩にしみいる蟬の声　(松尾芭蕉)
Vắng lặng u trầm
thấm sâu vào đá
tiếng ve ngâm.
(高校1年生言語文学教科書)

1990年から、ベトナム人の文学研究者は、俳句に魅せられ、俳句を翻訳・出

版した。文学講師ニャット・チエウは日本の文学及び俳句についての研究書籍を多数出版した。たとえば、『芭蕉と俳句』(1994)、『日本の詩歌』(1998)、『日本の文学――基礎から1868年まで』(2003)、『3000の詩歌世界』(1994) などがある。これらの書籍は日本語の書籍からではなく、英語、中国語の書籍を参考に書いたものである。同氏の日本文学及び俳句に関する著書は、俳句の教育及び研究に大きく貢献した。

2000年代も、研究者たちは俳句の研究に力を入れ始め、俳句関係の書籍及び研究論文は多く見られるようになった。『俳句入門』(レー・ティエン・ズン著、2000)、『松尾芭蕉と奥の細道』(ヴィン・シン著、2001) があり、様々な研究誌において俳句関連の研究論文が掲載された。『日本俳句のいくつかの芸術特徴』(ハー・ヴァン・ルオン著、2002)、『芭蕉――グエン・チャイーグエン・ズー、同調の詩歌』(ドアン・レー・ザン著、文学詩、2003)、『禅と俳句』(レー・ティ・タイン・タム著、2003) 等である。しかし、この時代まで、俳句が一般の人々の関心を惹くことはなかった。

上記の書籍の中で『松尾芭蕉と奥の細道』(ヴィン・シン著、2001) だけが、芭蕉の句を日本語から直訳している。その翻訳の特徴は、3行の詩形の他、ベトナムの独特の形式「ルク・バット」(六・八詩[1]) の2行で翻訳したという点である。例えば、芭蕉の「古池や蛙飛び込む水の音」は「六・八詩」の2行で訳されている。

Ao xưa bóng rũ trưa hè,
Nhái khua nước động, bốn bề tịch liêu!
(ベトナム語訳 ヴィン・シン)

「夏の午後の騒がしい蛙の声やその周りの静けさ」を鮮明に描写している。当時、このベトナム語訳は長すぎるとは言われていなかった (俳句についてまだ関心があまりなかったため)。それでも、ベトナム人の親しむ伝統的構成と韻律をもつ新しい詩の「俳句」を楽しむ機会を与えてくれたのである。

これらの書籍と論文を通して、日本文学の研究者達は俳句の美意識、特に物の哀れ、わび・さびに対する関心を高めていったものの、一般のベトナム人は短い詩形の俳句にあまり関心がなかった。近年、マイ・レィエン氏は『日本文学集』(労

1 「六・八詩」とは、「六言」の句と「八言」の句が腰韻 (句の途中に踏む韻) と脚韻 (句末に同じ韻) を踏みながら交互に交代していく形式であり、このような複雑な韻を踏みながらメロディを紡ぎだしていくわけである。

働出版社、2010）の中で「松尾芭蕉の奥の細道」について書き、そして2011年に出版されたグエン・ナム・チャン著の『日本文学史総括』（教育出版社）では、俳句の歴史についても紹介している。

2. ベトナムにおける初の俳句コンテスト

2007年、在ホーチミン日本国総領事館は、ベトナムで初めて「日越俳句コンテスト」を開催した。応募俳句はベトナム語部門と日本語部門からなる。3か月の応募期間中、ベトナムの南部、中部、北部の各地方から、予想を超える約4千句もの応募があった。応募者たちは自分の俳句作品を提出しただけではなく、俳句に対する感想をも寄せてきた。「短い詩のため、作詞しやすい。文字はあまりないが表す意味が深くて面白い詩型」だというような感想が多くあった。

その後、2年ごとに俳句コンテストが定期的に催され、2015年に「第5回俳句コンテスト」となった。いままでの入賞作を紹介する。以下、特に注記のないかぎり、和訳は筆者による。

（1）第1回俳句コンテスト（2007）の1位[2]：

〈日本語部門〉チャン・ホン・トゥック・チャン

春巡り過ぎし日想う窓の外

〈ベトナム語部門〉2位（1位なし）　グエン・テー・トォー

Con cá thở
Bọt bong bóng vỡ
Mưa phùn
（魚の呼吸泡壊し小雨）

（2）第2回俳句コンテスト（2009）1位[3]：

〈日本語部門〉ダオ・ホー・ティ・フォン

梅の花微笑み始め春の風

〈ベトナム語部門〉グエン・タイン・ガー

Xó chợ
Chiếc lon trống

2　在ホーチミン日本国総領事館、第1回日越俳句コンテスト冊子、2007年、21頁。
3　在ホーチミン日本国総領事館、第2回日越俳句コンテスト冊子、2009年、25頁。

Hạt mưa mồ côi
（市場の角空き缶孤児の雨）

（3）第3回俳句コンテスト（2011）1位[4]：
〈日本語部門〉マイン・ティ・レー・チー
種を蒔く子供の夢に幸あれと

〈ベトナム語部門〉トン・タット・トー
Quả mướp dài
Con ong vụt đến
Đâu người tình xưa?
（長い冬瓜ハチ来て昔の愛する人はどこ？）

（4）第4回日越俳句コンテスト（2013）1位[5]：
〈日本語部門〉ダン・チャン・バオ・カイン
雨降りに土地を耕す明日思う

〈ベトナム語部門〉チャン・ドック・ヴィエット
Trên lá môn non
Giọt sương đọng
Vầng trăng tý hon
（タロイモの葉落ち露小さな月）

（5）第5回日越俳句コンテスト（2015）1位[6]
チャン・ズイ・クオン
Mộ bên đường
Cơn mưa phùn ướt
Sân khấu dế non.
（道の墓霧雨の中虫奏で）（河村きくみ訳）

4　在ホーチミン日本国総領事館、第3回日越俳句コンテスト冊子、2012年、21、15頁。
5　在ホーチミン日本国総領事館、第4回日越俳句コンテスト冊子、2013年、16、36頁。
6　在ホーチミン日本国総領事館、第5回日越俳句コンテスト冊子、2015年、42頁。

この句に対して、ドアン・レー・ザン審査員は、「涼しい春の雨の中、コオロギが歌っている。生と死、草と雨、無常と永久の狭間で楽しげに歌い、ひっそりとお墓を自分の生涯のステージとする。新しい詩情であり、知らない世界を描き出しているように思えるが、実は我々の気づかぬうちに身の回りで起こっているもの」[7]とコメントした。

第5回の俳句コンテストは日本語の審査が困難という理由でベトナム語のみの募集となった。現在、ベトナムの日本語学習者は約4万7千人いるが、「俳句研究の場、俳句による日本語学習の場」としての日本語部門がなくなったことは、非常に残念である。

3. 俳句の普及に伴う研究動向

3.1. 学術的研究

俳句の普及を背景に、大学において俳句に関する学術研究が徐々に始められている。しかし、これまで俳句に関する修士学位論文、博士学位論文のテーマは二つしかないようである。2010年、ホーチミン市国家大学人文社会科学大学アジア学部のグエン・ティ・ラム・アイン氏は俳句に関する初の修士論文「俳句の美意識」を発表した。修士号取得後、アイン氏は俳句そのものの研究をしていないが、日本文学の美意識に関連する研究論文を発表している。

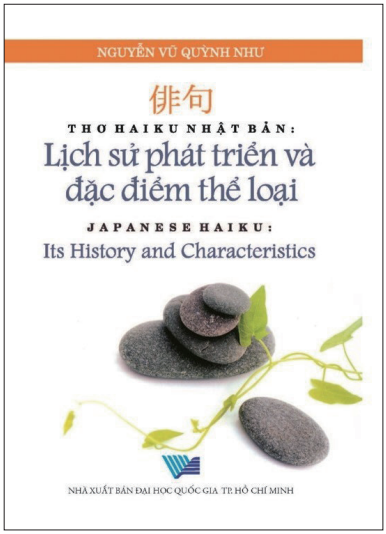

図1 『俳句』の表紙

博士学位論文は、2013年にホーチミン市国家大学人文社会科学大学文学言語学部グエン・ヴー・クイン・ニュー（筆者）がベトナムにおいて初の博士論文『俳句――発祥・発展の歴史及び詩形の特徴』（図1）を発表した。これは2015年にホーチミン市国家大学出版会から出版された。これはベトナム語の俳句関連書の中で、俳句の歴史（俳諧）から現在までの俳句の発展及び俳句言語・作詞ルール、俳句に見る日本の文化及び美意識を紹介した

7　在ホーチミン日本総領事館による和訳

唯一の書籍である。

また、ニューの多数の俳句関連の論文が様々な学術刊行物に掲載された。特に評価された論文は「俳句言語」『サイゴン大学文学・評論書』(2010)、「子供向け教育―俳句漫画」『サイゴン大学文学・評論書』(2011)、「正岡子規と革新俳句」『文学研究』(2010)、「ベトナムにおける俳句の受け入れに関わる課題」『東北アジア研究誌』(2012)、「第２世界大戦後年頭の俳句」『サイゴン大学文学・評論書』(2012)、「俳句から見た日本人の文明的なマナーの印象」『日本とベトナム19世紀末～20世紀初頭の文明開化書』(ベトナム教育出版社、2012) などである。

3.2. 研究論文

近年、日本の各財団、国際交流基金、諸大学との協力及び支援により、ベトナムでは、日本研究セミナーが定期的に行われ、日本研究が促進されている。南部のホーチミン市国家大学人文社会科学大学は、唯一の日本研究の拠点として、日本研究のシンポジウムが盛んに行われている。

ベトナムの俳句ブームに伴い、シンポジウムやセミナーにおいても俳句をテーマとする研究発表が増えている。芭蕉をはじめ、俳句の特徴、作句のルール、日本の文化から見る俳句等、多くの研究論文が発表されている。各シンポジウム、セミナーにおける主な俳句論文は以下の通りである。

①2016年3月19日、ホーチミン市国家大学人文社会科学大学日本学部主催・国際交流基金後援セミナー「近世期のアジアにおけるベトナムと日本」
「江戸時代における日本俳人の松尾芭蕉の足旅」(グエン・ヴー・クイン・ニュー)

②2015年12月12日、ホーチミン市人文社会科学大学・麗澤大学共催の国際セミナー「日越文化――グローバルと発展」
「俳句における日本の「和」の文化」(グエン・ヴー・クイン・ニュー)

③2015年8月23日、言語学学院主催の国際言語学セミナー
「俳句における余白」(グエン・ヴー・クイン・ニュー)

④2013年12月20～24日、ホーチミン市国家大学人文社会科学大学言語文学学部・国際交流基金主催のシンポジウム「21世紀のグローバル化時代における日本とベトナムの文学研究」
「現代日本社会における俳句発展の傾向」(グエン・ヴー・クイン・ニュー)
「俳句――文化の架け橋」(グエン・ティー・マイ・レィエン)

「俳句と六・八詩、五言絶句、ガザルの技法の比較研究」（グエン・ティー・マイ・レィエン）

⑤2011年11月8～9日、ホーチミン市国家大学人文社会科学大学日本学部主催・国際交流基金後援セミナー「日本とベトナムの「文明開化」の比較研究」

「俳句から見た日本人の文明的なマナーの印象」（グエン・ヴー・クイン・ニュー）

⑥2011年12月6～7日、ホーチミン市国家大学人文社会科学大学言語文学学部主催・国際交流基金後援セミナー「日本とベトナム文学――東アジアの視点から」

「川柳とベトナムの民謡における笑い」（ニャット・チエウ）

「百人一首における皇帝女子俳人」（チャン・ティー・チュン・トアン）

「ベトナムにおける俳句形式「五-七-五」の変形」（グエン・ヴー・クイン・ニュー）

「俳句と六・八詩を考える」（グエン・ティー・タイン・スゥアン）

「ベトナム語の俳句に見る日越文学交流」（グエン・コン・リー）

「ベトナムの禅の詩と日本中世俳句における詩形」（ファン・ティ・ホン）

⑦2010年3月23～24日、ホーチミン市人文社会科学大学言語文学主催セミナー「日本と漢字文化圏諸国（ベトナム・中国・韓国）の文学における近代化（19世紀末から20世紀初まで）」

「正岡子規と現代俳句」（グエン・ヴー・クイン・ニュー）

「台湾における俳句」（グエン・タイン・フォン）

「日本の新誌（短歌、俳句）」（ファム・スァン・グエン）

3.3. ベトナムの俳句クラブによる俳句研究増加

日越俳句コンテストを開催してから、俳句に関心を持つ者が増え、俳句はブームとなった。2007年にホーチミン市俳句クラブ、そして2009年にハノイの俳句クラブ、2015年には中南部のニャ・チャン俳句クラブが創立された。その後、他の地方、各大学でも俳句クラブが設立された。各俳句クラブでは、作句だけではなく、俳句への理解を深め、俳句研究も盛んになっている。

各俳句クラブは、会員が作句しながら、俳句の知識、感想を共有するため、配布用の年刊俳句冊子を発行している。また俳句研究等の短文が増えている。近年、この年刊俳句冊子に見られる俳句研究テーマの主要課題は下記のようなものである。

日本人の著名俳人：芭蕉、蕪村、子規、猟官、日本の女流俳人の俳句
俳句における美意識：禅、ものの哀れ、俳句のひとつのイメージ等
ベトナムにおける俳句の受容：ベトナム語の俳句名の考え、オープン俳句、改新俳句、越俳句
ベトナム語の俳句：句形・季語の無視、音韻重視、国内化俳句、ベトナムの伝統詩の中の俳句、ベトナムのイメージ
日本語俳句からベトナム語に訳する課題：越語の俳句は2行詩か3行詩か、5-7-5句形導入必要、俳句の翻訳問題
俳句の国際化：世界で普及している俳句を紹介する。
日本現代の俳人：世界俳句協会の俳人の俳句を紹介する。
ベトナムの女流俳人について
俳句の生態

2015年までには、ホーチミン市俳句クラブ及びハノイの俳句クラブの年刊俳句冊子に投稿された俳句研究作文のテーマは様々である。日本の俳句についての研究テーマもあるが、ベトナム語で作句するための知識やテーマがより多く研究されている。「越詩における俳句」、「ことわざとカ・ゾウ（ベトナム民謡）の林から見慣れない花が咲く」、「俳句からの新日光」、「ベトナム人による作句」、「探求及び肯定中のベトナムの心の俳句」、「俳句の朗読と創作の幸せ」、「越俳句のシラバス研究」、「ベトナムへの俳句導入」、「俳句―3行なのか？」、「俳句、ベトナムの六・八の詩のリズムとベトナム語の俳句のリズム」、「越俳句を探す」、「俳句を作るベトナム人」、「俳句におけるベトナムの心」、「ベトナムの伝統詩の中の俳句」、「松尾芭蕉と香りの原理」、「俳句：詩形、言葉表現（形容詞なし）」、「日本古典俳句技法特徴」、「日本俳句を研究」、「川柳と俳句」等である。

4.「質の高い成長」と今後の研究課題

グローバル化の進展に伴い、俳句は世界に普及し、ベトナムの俳句研究も充実されていくことを願っている。日本語学習者が急増しているベトナムにおいて、日本研究に関心を持つ人々にとって、日本文化・文学の研究を発展させるには、俳句の研究は不可欠である。ベトナムにおいて俳句の普及に伴って、俳句研究が増加していることは確かである。

俳句クラブの会員は俳句への興味・関心が非常に高く、俳句ブームの高揚に貢献している。また、日本の俳句に関する豊かな知識をもち、研究論文のレベルも

高い。ただ、ベトナム人の俳句研究者で、日本語で直接研究する人はまだ少ない。研究者のほとんどは、英語かフランス語を通して研究している。日本語能力のある俳句研究者が少ないのが現実である。

また、ベトナムでは、日本語文学、特に俳句に関する参考文献が不十分であり、俳句の教材、資料に触れることは未だ十分ではない。そのため、日本俳句を専攻するカリキュラムを持っている大学がほとんどない。このような状況の中で、日本語能力の限界、日本語の俳句集と研究資料に接することが困難なため、俳句の翻訳出版も少ない。紹介した数少ない出版物及び研究論文は俳句の概要を紹介するだけであり、今後、俳句を専門的に研究する書物の刊行が期待される。

俳句の知識を浅く広く有しているものの、俳句をよく知る知日家や日本研究者の形成にまで繋がっていない。また、俳句を含む文学作品の翻訳出版は量的にはまだまだ少ない。また、ベトナム語訳の場合は英語等の第三言語に依存しているのが現状である。今後は、重訳ではない直訳、著作権を適切に処理した出版が望ましい。

俳句の知識をより深めるために、日本人の俳句研究者、専門家と連携して研究を進めるべきであろう。日本からの官民連携による積極的で本格的な研究支援が不可欠である。それによって、ベトナムの俳句研究の発展に役立ち、日本研究全体の発展に貢献できるものと思われる。

参考資料

グエン・ヴー・クイン・ニュー『俳句――発祥・発展の歴史及び詩形の特徴』ホーチミン市国家大学出版社、2015年。

ホーチミン市国家大学人文社会科学大学言語文学学部主催・国際交流基金後援シンポジウム「21世紀のグローバル化時代における日本とベトナム文学研究」2013年。

ホーチミン市国家大学人文社会科学大学言語文学学部主催・国際交流基金後援シンポジウム「日本とベトナム文学――東アジアの視点から」2011年。

ホーチミン市国家大学人文社会科学大学言語文学学部主催・国際交流基金後援シンポジウム「日本と漢字文化圏諸国（ベトナム・中国・韓国）の文学における近代化」2010年。

在ホーチミン日本国総領事館『日越俳句コンテストの冊子』2007、2009、2011、2013、2015年。

ホーチミン市・ハノイ俳句クラブ『俳句冊子』（2013 ～ 2015年）

http://www.hcmcgj.vn.emb-japan.go.jp/vn/thithohaiku2015.html

https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/vietnam.html